

名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅間）に関するニーズ調査 集計結果（抜粋）

1) 市民アンケート調査

(1) 調査概要

項目	内容
調査目的	西尾市民・蒲郡市民の当該区間の利用状況や利用意向、当該区間に対する要望や税負担のあり方などについて把握するため。
調査期間	2024年7月18日（木）発送、8月6日（火）回答期限
調査方法	無作為抽出した調査対象者へ調査票を郵送し、紙面またはWebで回答
調査対象者	西尾市民 3,000人・蒲郡市民 1,500人 計 4,500人（1人1通）
回収数・回収率	1,865票回収・回収率 41.4%

(2) 集計にあたっての地域区分について

西尾市・蒲郡市のそれぞれにおいて「沿線中学校区」と「沿線外中学校区」で分けて集計しています。各市の中中学校区の区分は下記の通りです。

項目	内容
西尾市（沿線中学校区）	西尾中学校、福地中学校、吉良中学校、幡豆中学校
西尾市（沿線外中学校区）	鶴城中学校、平坂中学校、寺津中学校、東部中学校、一色中学校
蒲郡市（沿線中学校区）	中部中学校、塩津中学校、形原中学校、西浦中学校
蒲郡市（沿線外中学校区）	大塚中学校、三谷中学校、蒲郡中学校

回答者の居住中学校区について「わからない」と回答されている場合において、回答された町名からも中学校区が判断できない回答は、「沿線」・「沿線外」での集計には含まず、「西尾市計」・「蒲郡市計」に含んでいます。

また、居住中学校区について回答がない場合では「両市計」に含んでいるため、グラフ内のn数（回答者数）を足し合わせたときに「西尾市計」や「蒲郡市計」、「両市計」と一致しないことがあります。

(3) コメントについて

各集計結果のグラフに対するコメントについて、「■」は両市計に対する全体のコメント、「□」は西尾市と蒲郡市や、沿線中学校区と沿線外中学校区など、回答者属性間での比較をしたコメントとしています。

(3) 集計結果 (抜粋)

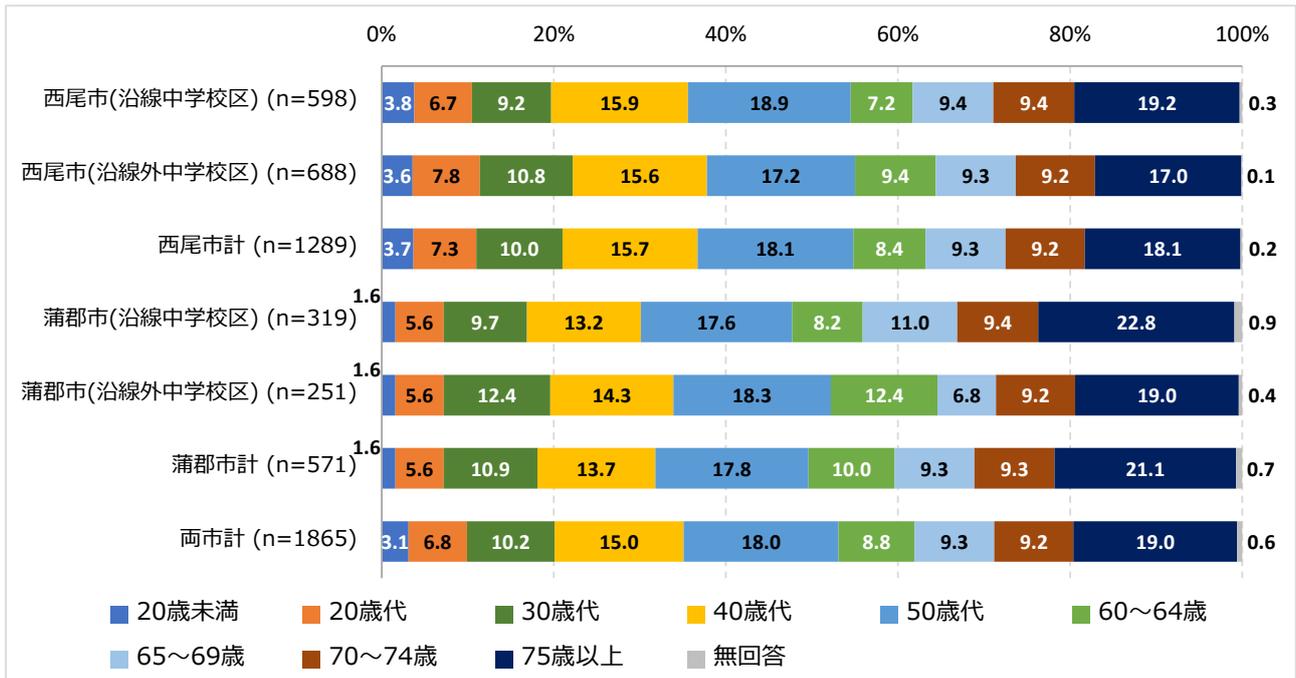
①回答者の年齢【問1-②】

■回答者の年齢は「75歳以上」が19.0%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が18.0%となっています。

■「60～64歳」「65～69歳」を足し合わせた場合では18.1%で「50歳代」より割合が高まります。

□両市とも沿線中学校区の方が沿線外中学校区よりも65歳以上の割合が高くなっています。

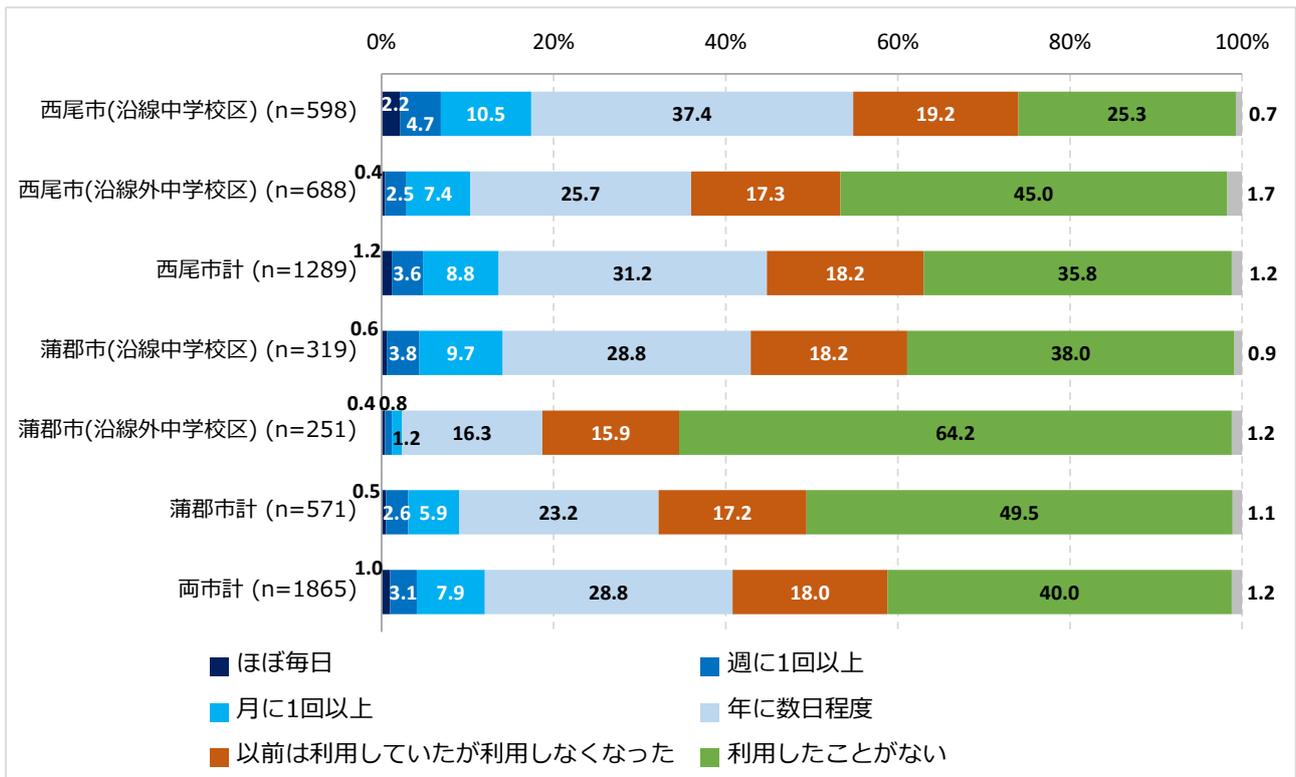
▼回答者の年齢



②直近1年間における名鉄西尾・蒲郡線の利用頻度【問9】

- 直近1年間の利用頻度は「利用したことがない」が40.0%で最も割合が高く、次いで「年に数日程度」が28.8%となっています。
- 「利用したことがない」と「以前は利用していたが利用しなくなった」を合わせた割合（1年間に利用していない人）は58.0%となっています。
- 西尾市の沿線中学校区では“利用している人”（「年に数日程度」以上）が半数を超えています。
- 両市とも沿線中学校区の方が沿線外中学校区よりも“利用している人”（「年に数日程度」以上）の割合が高くなっています。

▼名鉄西尾・蒲郡線の利用頻度



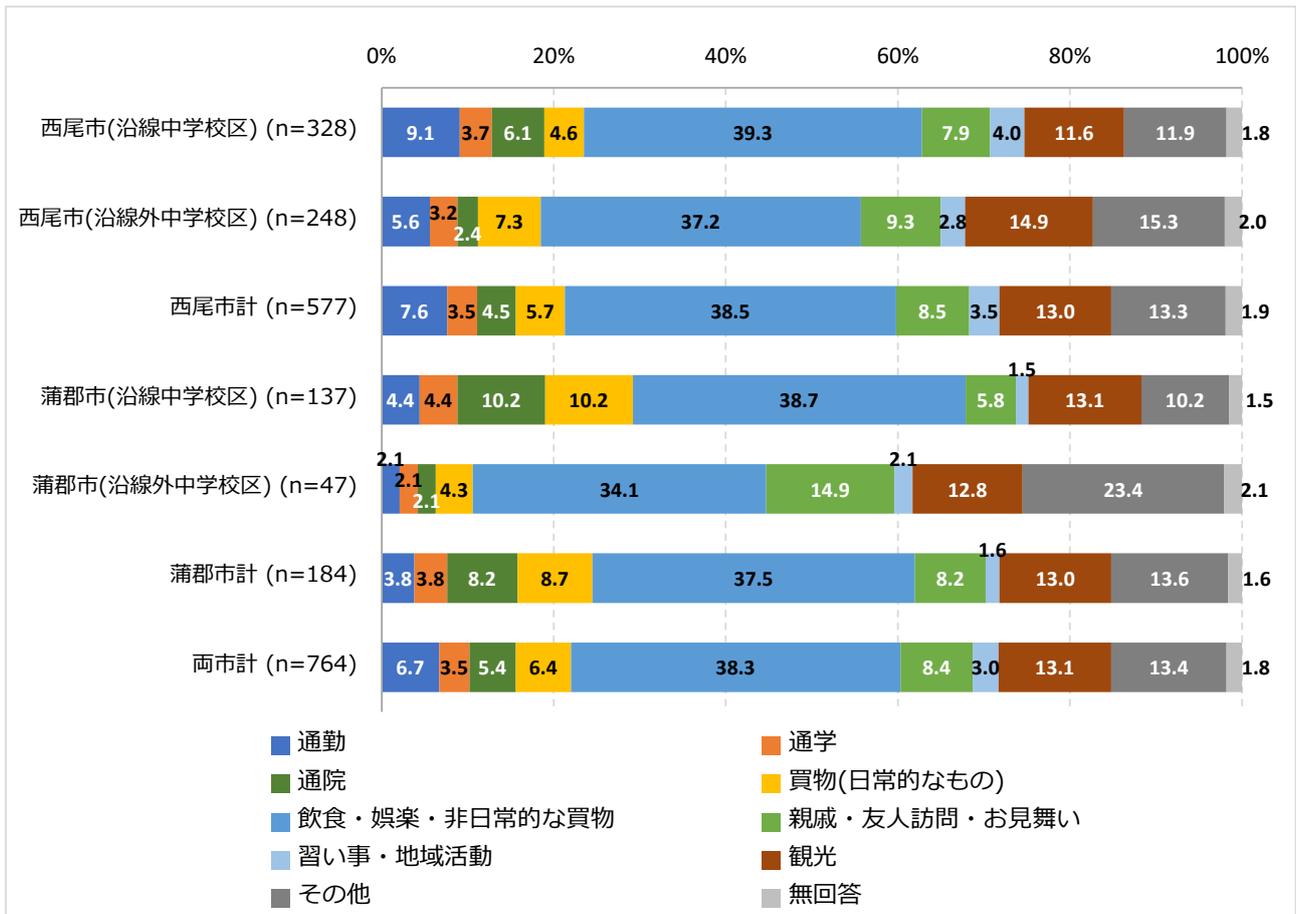
③名鉄西尾・蒲郡線の利用目的（利用経験者のみ）【問 11】

■直近1年間で利用している人の主な利用目的は「飲食・娯楽・非日常的な買物」が38.3%で最も割合が高く、次いで「観光」が13.1%となっています。

□蒲郡市の沿線中学校区では、他の地域と比較して「買物（日常的なもの）」の割合が高くなっています。

□両市とも沿線中学校区の方が沿線外中学校区よりも、「通勤」「通学」「通院」「買物（日常的なもの）」といった、日常的な（比較的頻度が高い）目的で利用する割合が高くなっています。

▼名鉄西尾・蒲郡線の利用目的（主なもの1つ）



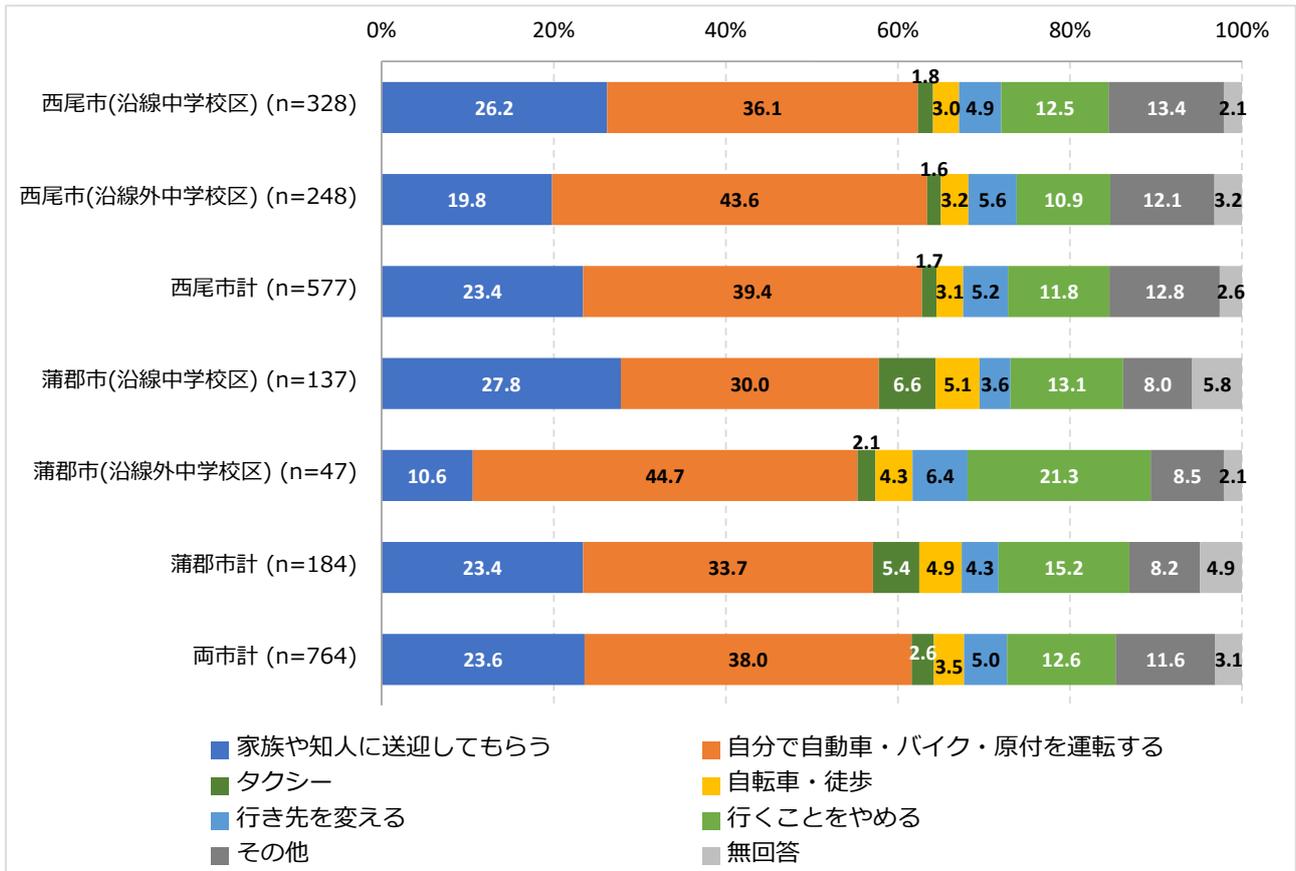
④名鉄西尾・蒲郡線が万が一なくなった場合の代替移動手段（利用経験者のみ）【問 17】

■代替交通手段は「自分で自動車・バイク・原付を運転する」が38.0%で最も割合が高く、次いで「家族や知人に送迎してもらう」が23.6%となっています。

□両市とも沿線中学校区の方が沿線外中学校区よりも、「家族や知人に送迎してもらう」と回答した割合（自分自身での代替交通手段を持たない人の割合）が高くなっています。

□蒲郡市の沿線中学校区では、他の地区と比較して「タクシー」と回答した割合が高くなっています。

▼名鉄西尾・蒲郡線が万が一なくなった場合の代替移動手段



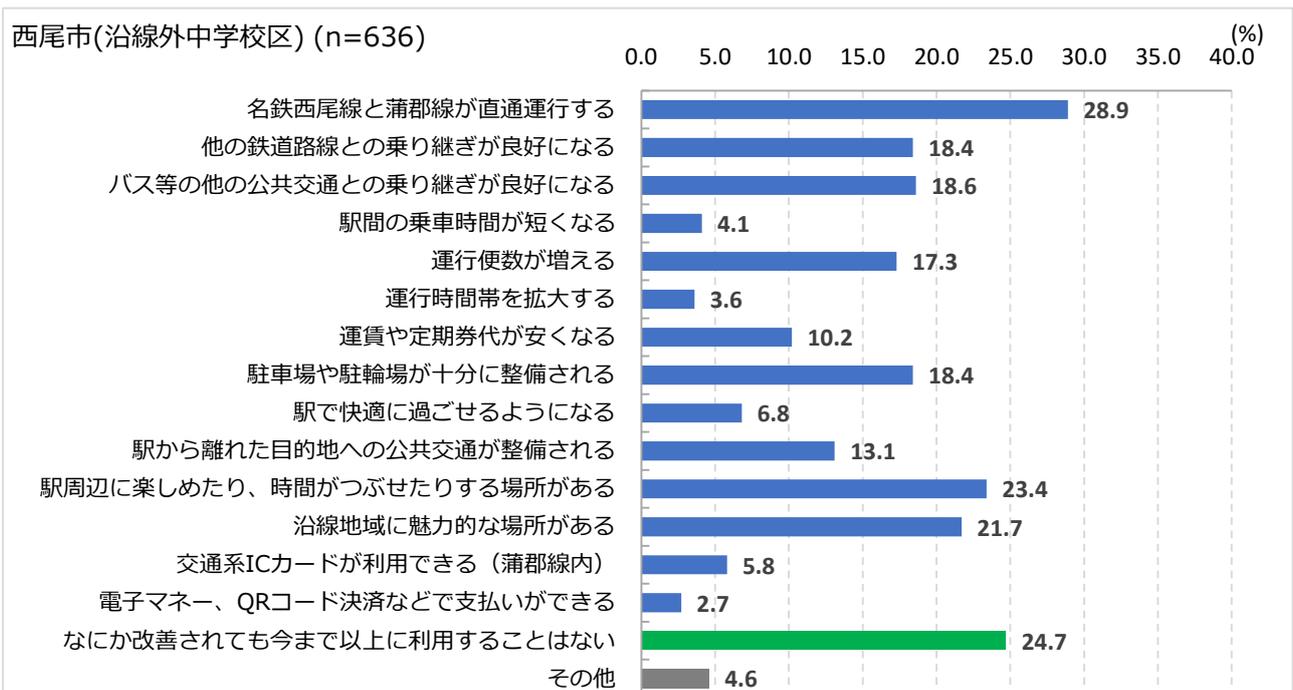
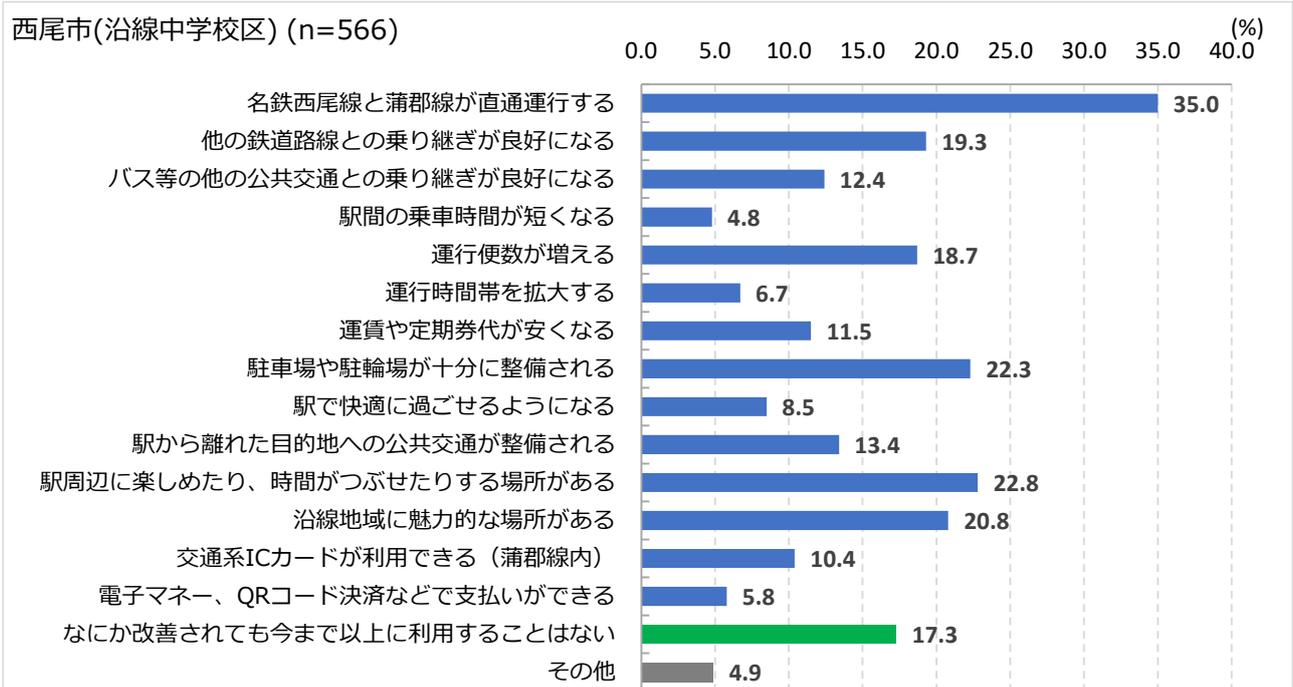
⑤今まで以上に利用するための改善事項（3つまで選択可）【問 19】

■改善事項は「名鉄西尾線と蒲郡線が直通運行する」が30.5%で最も割合が高く、次いで「駅周辺に楽しめたり、時間がつぶせたりする場所がある」が22.3%となっています。

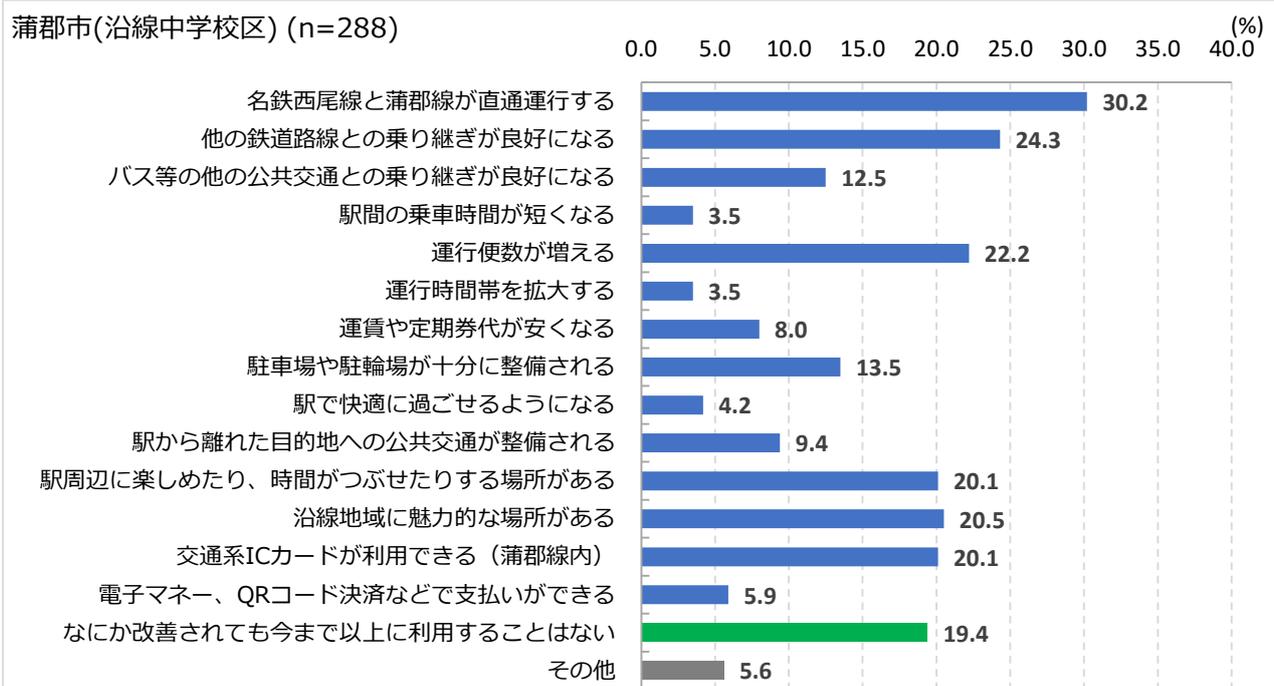
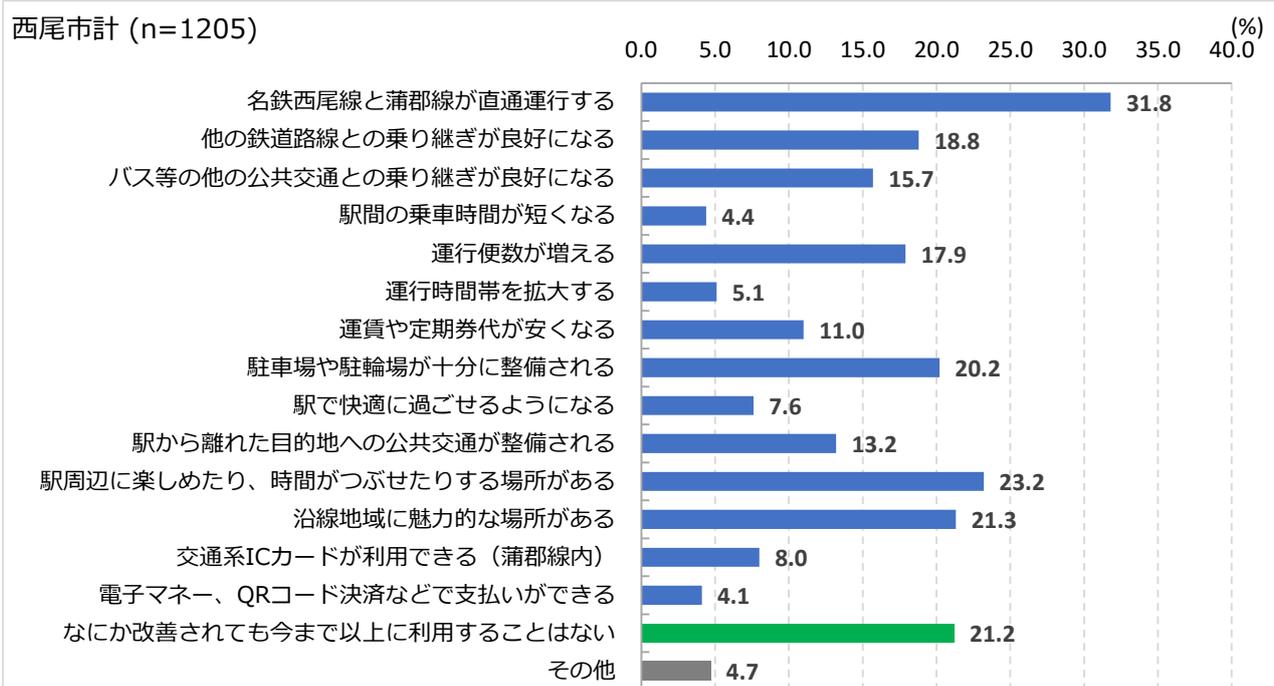
■「なにか改善されても今まで以上に利用することはない」は22.8%となっています。

□両市とも沿線中学校区の方が沿線外中学校区よりも、「なにか改善されても今まで以上に利用することはない」と回答した割合が低くなっています。

▼今まで以上に利用するための改善事項①（無回答者を除く選択割合）

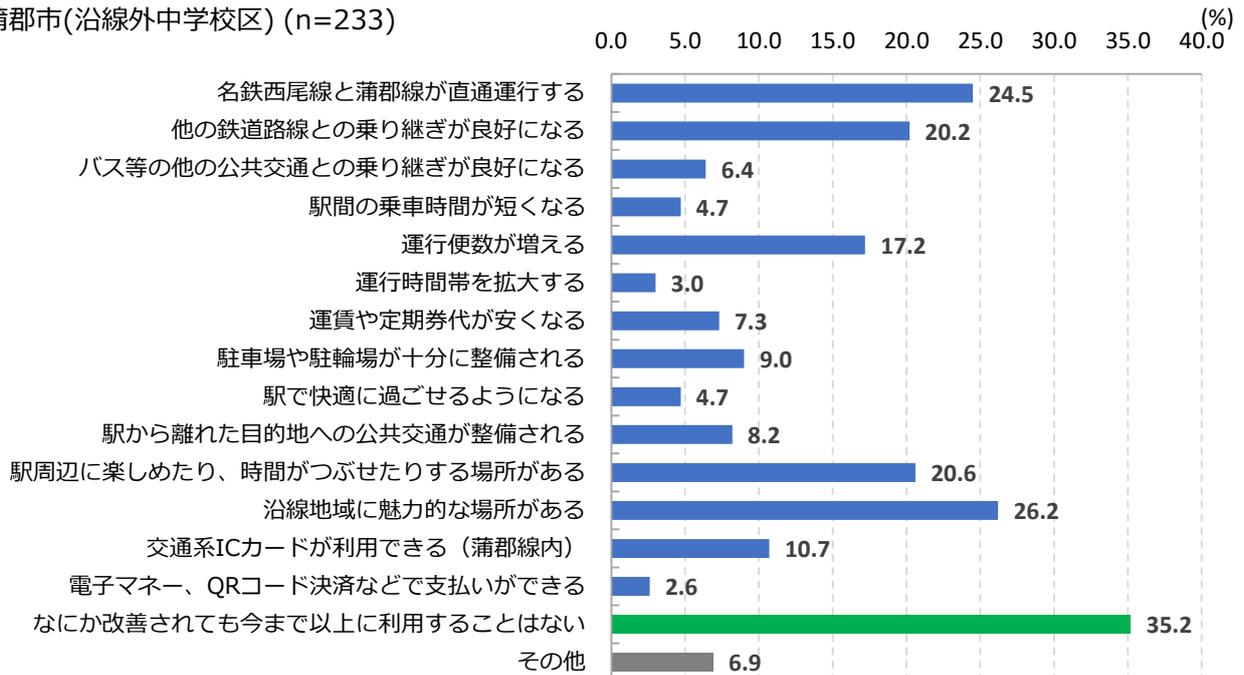


▼今まで以上に利用するための改善事項②（無回答者を除く選択割合）

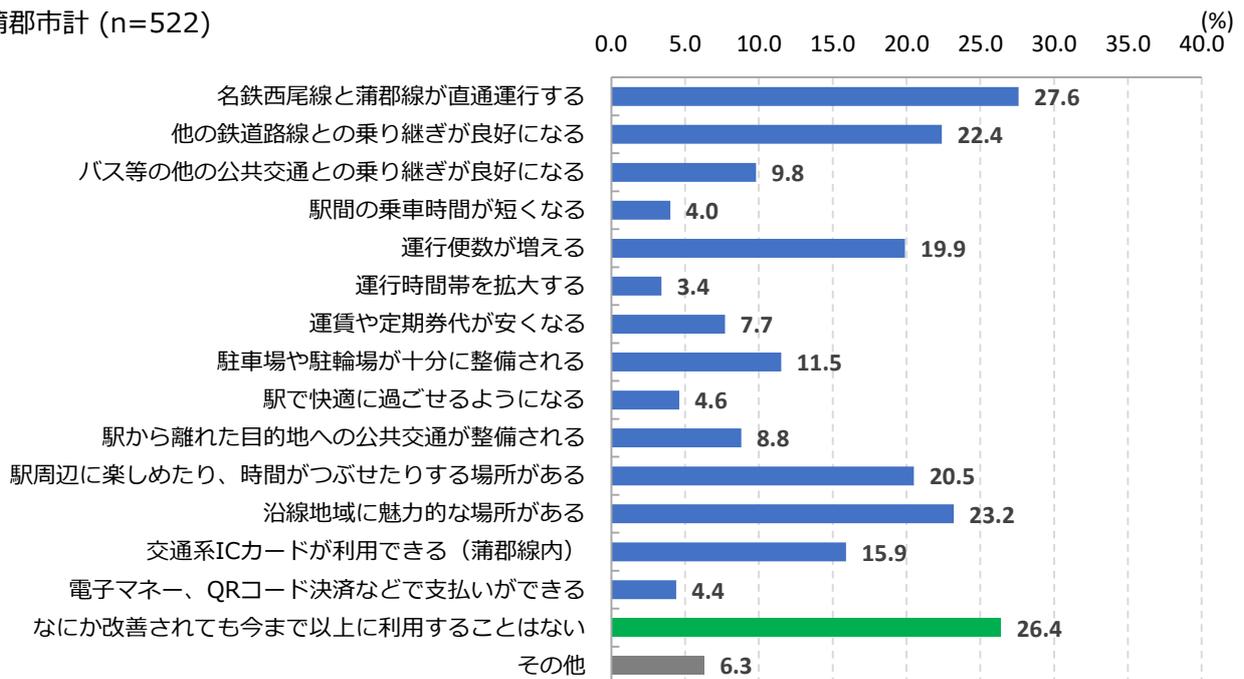


▼今まで以上に利用するための改善事項③（無回答者を除く選択割合）

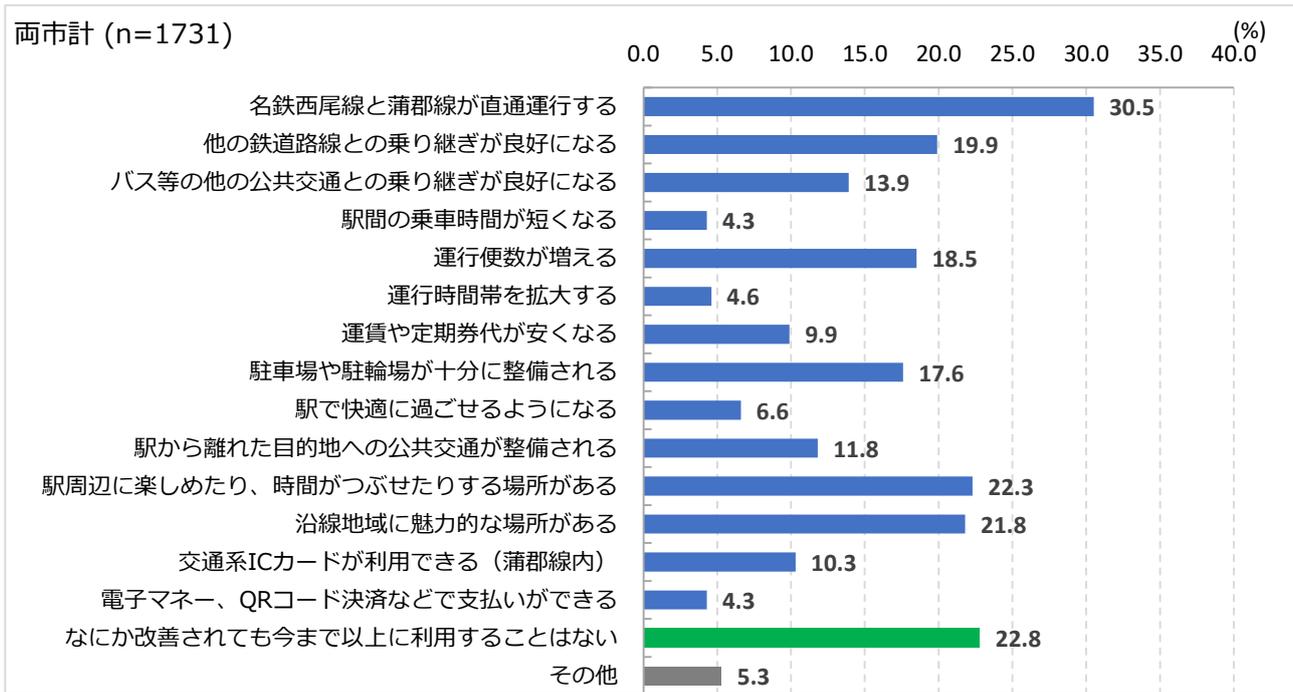
蒲郡市(沿線外中学校区) (n=233)



蒲郡市計 (n=522)



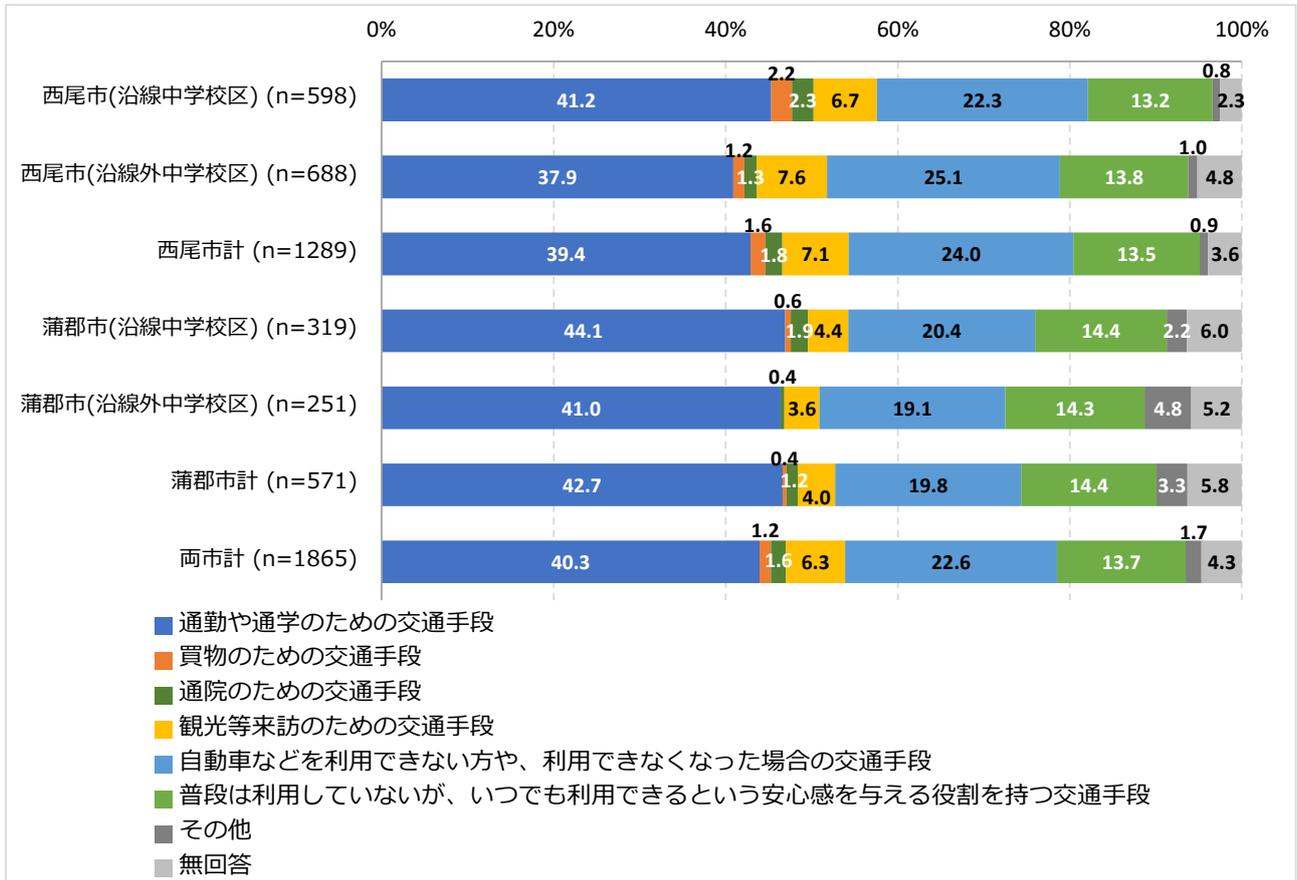
▼今まで以上に利用するための改善事項④（無回答者を除く選択割合）



⑥名鉄西尾・蒲郡線に期待する役割【問 20】

■期待する役割は「通勤や通学のための交通手段」が40.3%で最も割合が高く、次いで「自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」が22.6%となっています。
 □各地区とも「両市計」の構成比と概ね同様の傾向となっています。

▼期待する役割

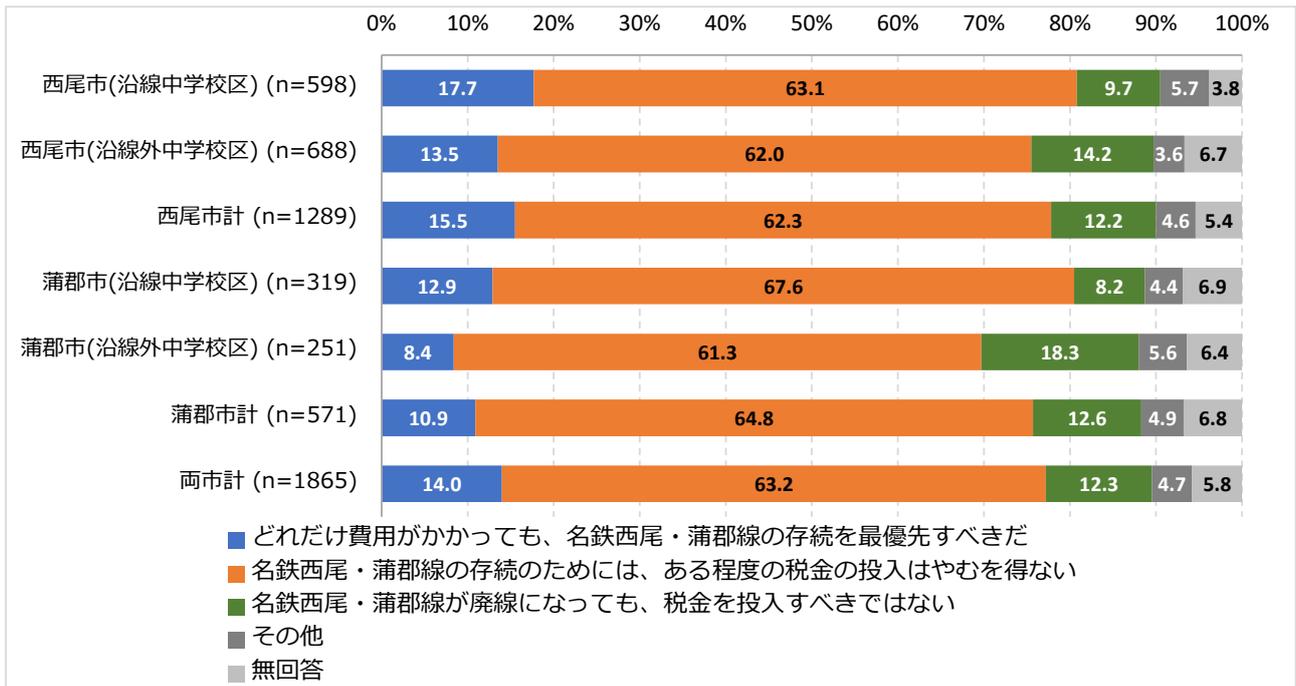


⑦役割を果たすための、沿線市の今後の費用負担のあり方【問 21】

■沿線市の今後の費用負担のあり方は「名鉄西尾・蒲郡線の存続のためには、ある程度の税金の投入はやむを得ない」が63.2%で最も割合が高く、次いで「どれだけ費用がかかっても、名鉄西尾・蒲郡線の存続を最優先すべきだ」が14.0%となっています。

□両市とも沿線中学校区の方が沿線外中学校区よりも、「名鉄西尾・蒲郡線が廃線になっても、税金を投入すべきではない」と回答した割合が低くなっています。

▼沿線市の今後の費用負担のあり方



2) 利用者アンケート調査

(1) 調査概要

項目	内容
調査目的	当該区間の利用状況や、当該区間に対する利用者としての意向や税負担のあり方などについて把握するため。
調査期間	2024年7月5日（金）・7日（日）配布、19日回答期限
調査方法	調査対象者へ調査票を手渡しで配布し、紙面またはWebで回答
調査対象者	調査日に当該区間（西尾駅～蒲郡駅）を利用した全利用者 （乗車毎に調査票を配布）
配布数・回収数・回収率	7月5日（金）配布：2,641票 7月7日（日）配布：1,362票 合計配布数：4,003票・1,220票回収・回収率 30.5%

(2) 集計にあたっての利用者区分について

「乗車駅」・「降車駅」の回答から、下記の通り利用者区分を設定し集計を行いました。

項目	内容
西尾線	「乗車駅」・「降車駅」のいずれも蒲郡線の駅（吉良吉田を除く）に当てはまらない人
蒲郡線	「乗車駅」・「降車駅」のいずれかが蒲郡線の駅に当てはまる人 ※吉良吉田は移動が蒲郡線内で完結している場合のみ

乗車駅・降車駅について回答がない場合では「合計」に含んでいるため、グラフ内のn数（回答者数）を足し合わせたときに「合計」と一致しないことがあります。

(3) コメントについて

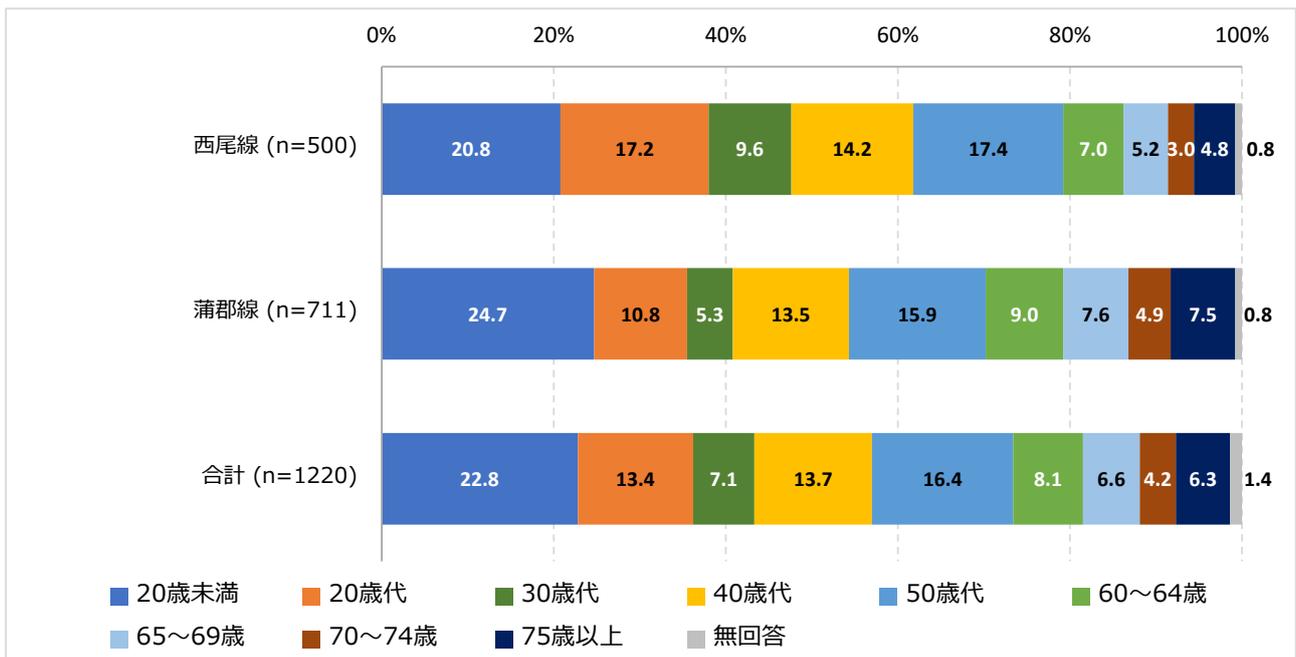
各集計結果のグラフに対するコメントについて、「■」は合計に対する全体のコメント、「□」は西尾線と蒲郡線など、回答者属性間での比較をしたコメントとしています。

(3) 集計結果 (抜粋)

①回答者の年齢【問1-②】

- 回答者の年齢は「20歳未満」が22.8%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が16.4%となっています。
- 「20歳代」～「50歳代」では、「30歳代」のみ他の年代と比較して回答割合が低くなっています。
- 蒲郡線は西尾線と比較して「20歳未満」の割合が高くなっていますが、同時に65歳以上の高齢者の割合も高くなっています。

▼回答者の年齢

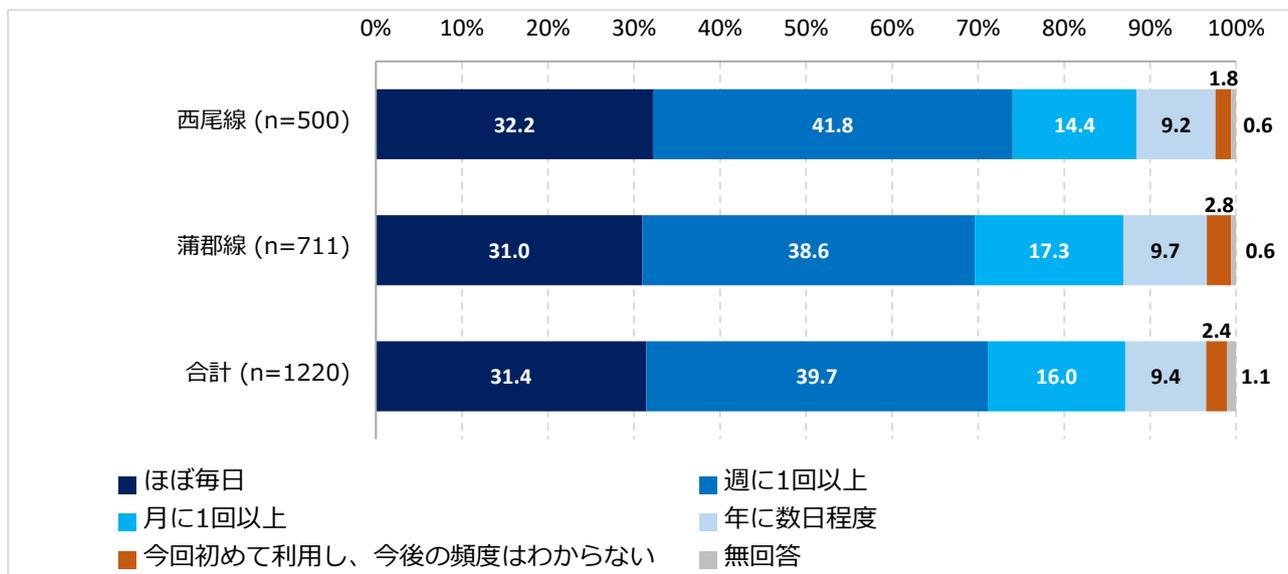


②名鉄西尾・蒲郡線の利用頻度【問 16】

■利用頻度は「週に1回以上」が39.7%で最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が31.4%となっています。

□両線とも「合計」の構成比と概ね同様の傾向となっています。

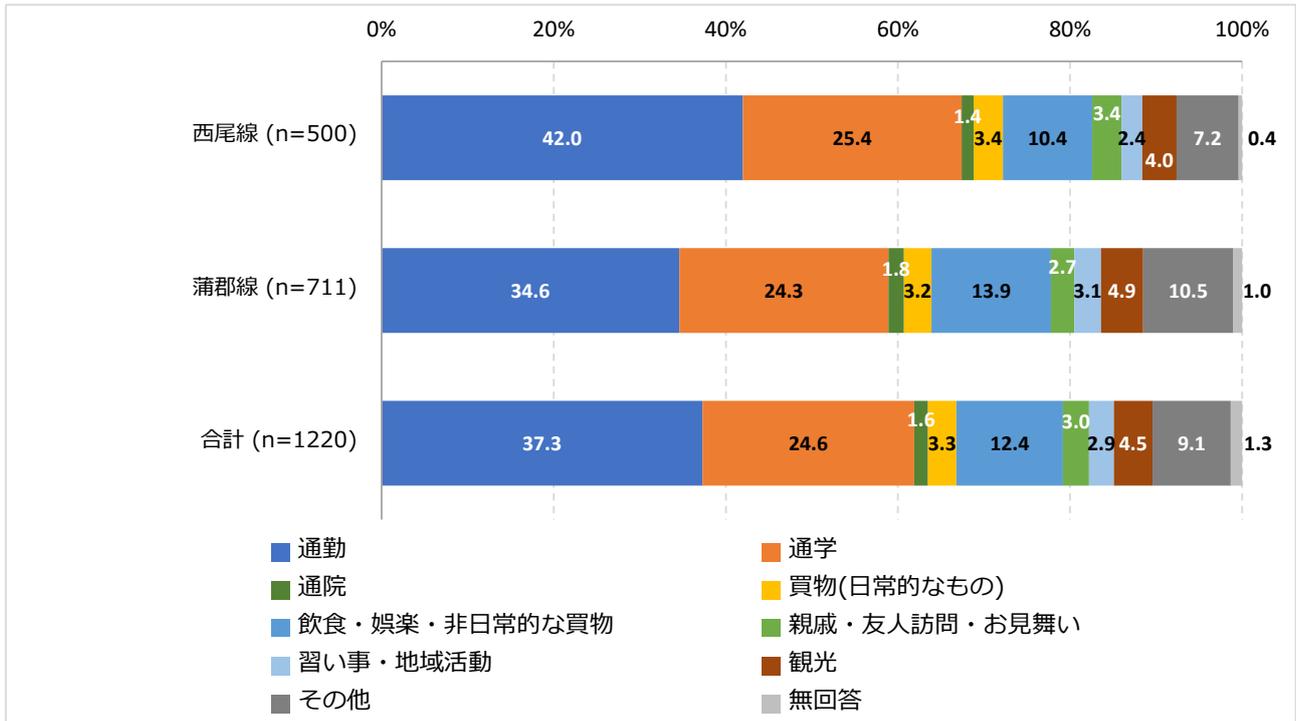
▼名鉄西尾・蒲郡線の利用頻度



③名鉄西尾・蒲郡線の利用目的（利用経験者のみ）【問9】

- アンケートを受け取った際の利用目的は「通勤」が 37.3%で最も割合が高く、次いで「通学」が 24.6%となっています。
- 西尾線では蒲郡線と比較して「通勤」の割合が高くなっています。
- 蒲郡線では西尾線と比較して「飲食・娯楽・非日常的な買物」の割合が高くなっています。

▼名鉄西尾・蒲郡線の利用目的（主なもの1つ）

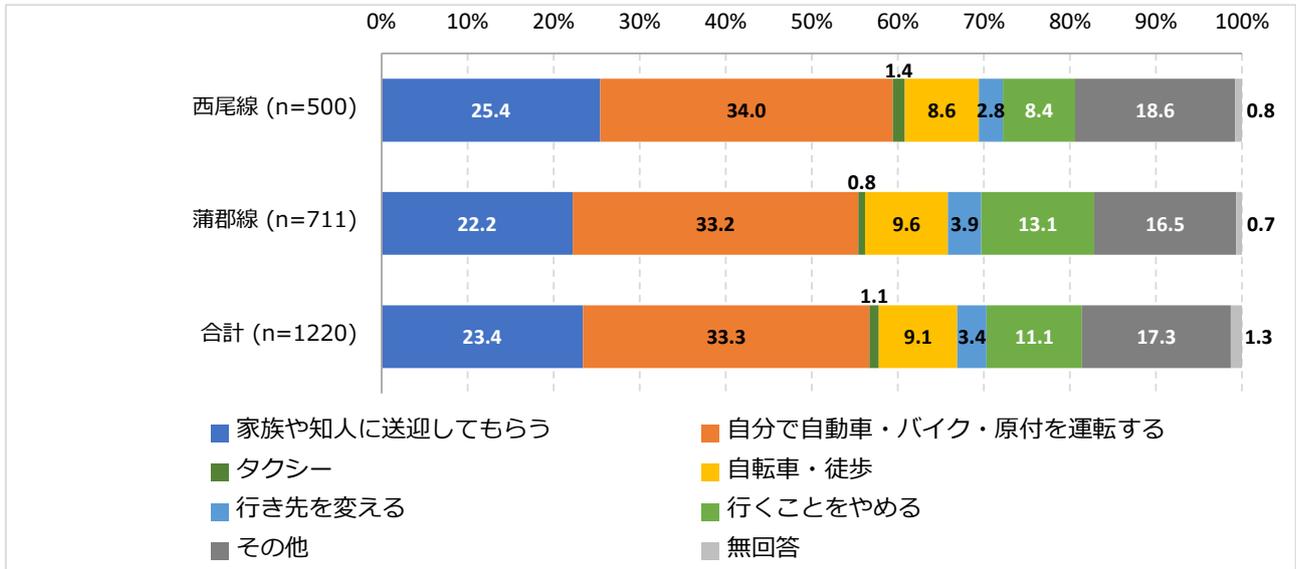


④名鉄西尾・蒲郡線が万が一なくなった場合の代替移動手段【問 17】

■代替交通手段は「自分で自動車・バイク・原付を運転する」が33.3%で最も割合が高く、次いで「家族や知人に送迎してもらう」が23.4%となっています。

□蒲郡線では西尾線と比較して「行くことをやめる」と回答した割合が高くなっています。

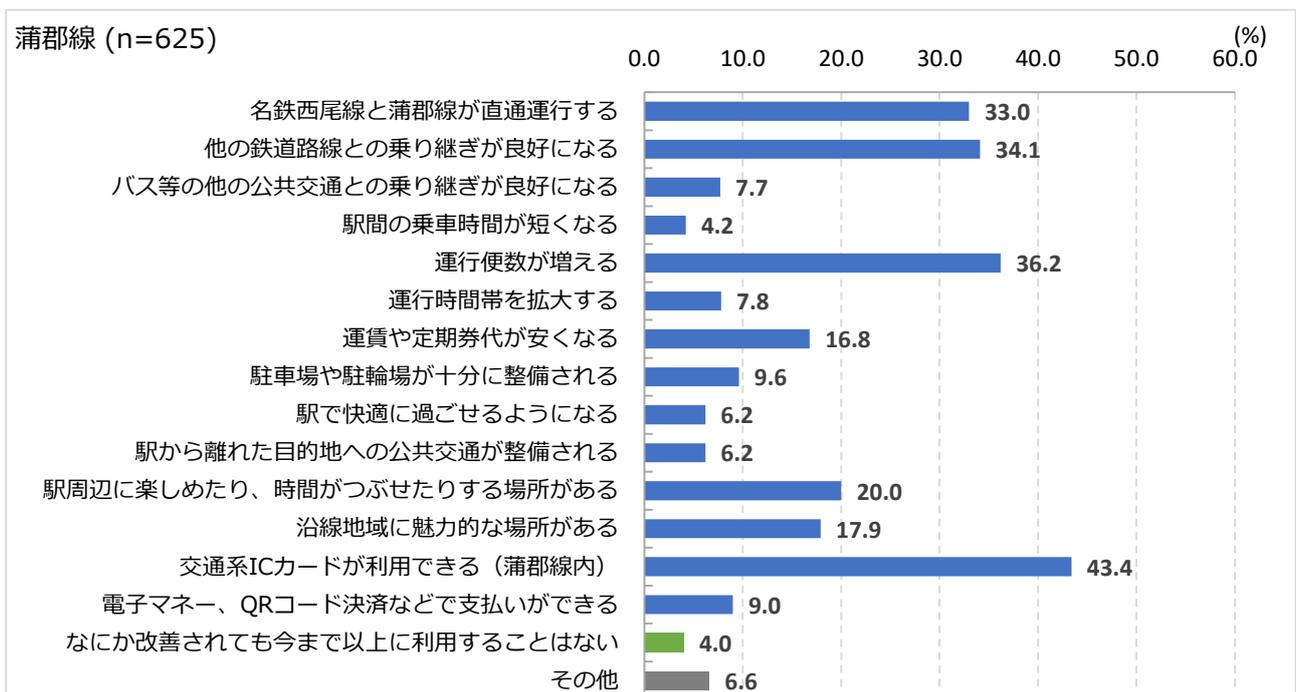
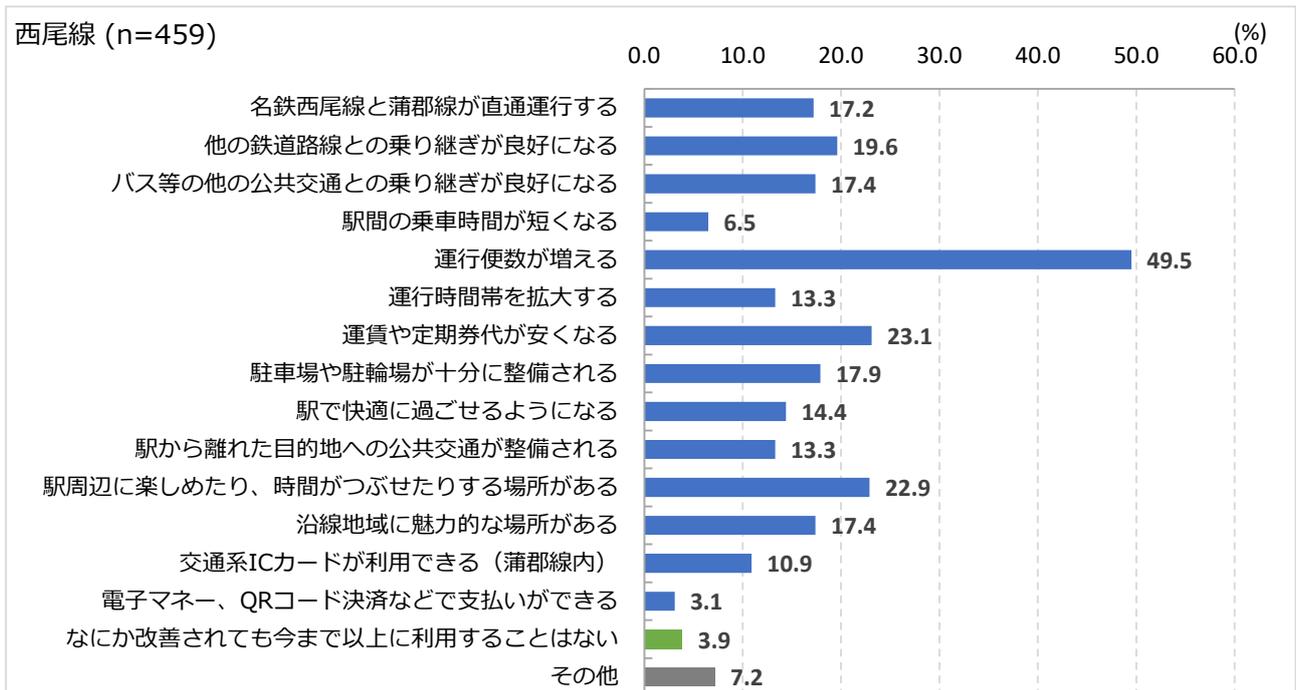
▼名鉄西尾・蒲郡線が万が一なくなった場合の代替移動手段



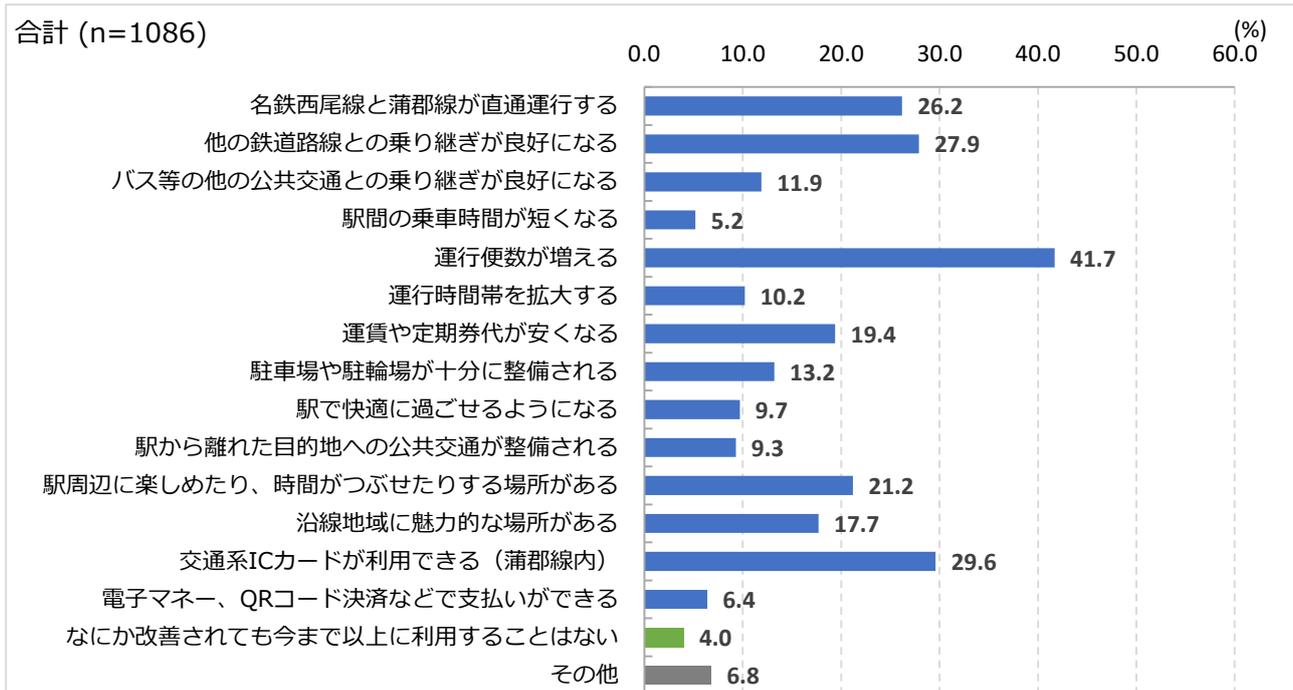
⑤今まで以上に利用するための改善事項（3つまで選択可）【問 19】

- 改善事項は「運行便数が増える」が41.7%で最も割合が高く、次いで「交通系 IC カードが利用できる（蒲郡線内）」が29.6%となっています。
- 「なにか改善されても今まで以上に利用することはない」は4.0%となっています。
- 西尾線では蒲郡線と比較して「運賃や定期券代が安くなる」や「駐車場や駐輪場が十分に整備される」の割合が高くなっています。
- 蒲郡線では西尾線と比較して「交通系 IC カードが利用できる」や「名鉄西尾線と蒲郡線が直通運行する」の割合が高くなっています。

▼今まで以上に利用するための改善事項①（無回答者を除く選択割合）



▼今まで以上に利用するための改善事項②（無回答者を除く選択割合）



▼各線における改善事項 上位5項目

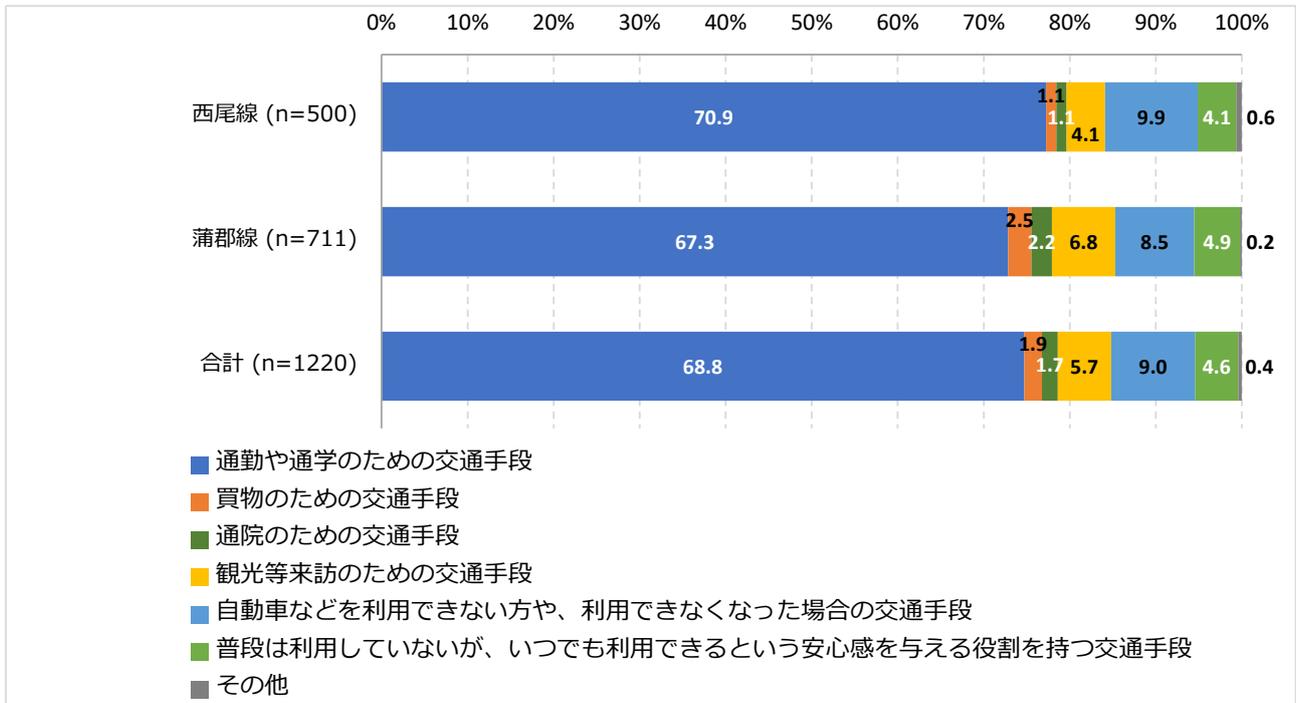
西尾線		蒲郡線	
改善事項	選択割合	改善事項	選択割合
運行便数が増える	49.5%	交通系 I C カードが利用できる	43.4%
運賃や定期券代が安くなる	23.1%	運行便数が増える	36.2%
駅周辺に楽しめたり、 時間がつぶせたりする場所がある	22.9%	他の鉄道路線との乗り継ぎが良好になる	34.1%
他の鉄道路線との乗り継ぎが良好になる	19.6%	名鉄西尾線と蒲郡線が直通運行する	33.0%
駐車場や駐輪場が十分に整備される	17.9%	駅周辺に楽しめたり、 時間がつぶせたりする場所がある	20.0%

※網かけは共通している項目

⑥名鉄西尾・蒲郡線に期待する役割【問 20】

■期待する役割は「通勤や通学のための交通手段」が68.8%で最も割合が高く、次いで「自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」が9.0%となっています。
 □両線とも「合計」の構成比と概ね同様の傾向となっています。

▼期待する役割（無回答・2票目の回答を除く割合）



⑦役割を果たすための、沿線市の今後の費用負担のあり方【問 21】

■沿線市の今後の費用負担のあり方は「名鉄西尾・蒲郡線の存続のためには、ある程度の税金の投入はやむを得ない」が56.5%で最も割合が高く、次いで「どれだけ費用がかかっても、名鉄西尾・蒲郡線の存続を最優先すべきだ」が38.3%となっています。

□両線とも「合計」の構成比と概ね同様の傾向となっています。

▼沿線市の今後の費用負担のあり方（無回答・2票目の回答を除く割合）

